

1. 尺八楽「巢鶴鈴慕」について（計25点）

問1. 尺八という楽器の名前は、標準的な楽器の全長が（ ）であることに由来するといわれている。（5点）

問2. 「巢鶴鈴慕」は、親鳥たちの出会いから、雛の誕生、成長、巣立ち、そして母鳥の死までを描いた、（ ）をテーマにした作品であると伝えられている。（5点）

問3. 江戸時代、尺八は（ ）と呼ばれる僧侶たちの宗教的な修行の一つとされており、彼らが各地に伝わる曲を集めたものは「琴古流本曲」と呼ばれる。（5点）

問4. 尺八の奏法のうち、閉じた指孔を徐々に開けて音高を滑らかに上げる技法を（ ）という。（5点）

問5. 尺八の奏法のうち、顎を引き、歌口を狭めることで音高を下げる技法を（ ）という。（5点）

2. カンツォーネ「帰れソレントへ」について（計25点）

問1. 「帰れソレントへ」の作曲者は（ ）である。（5点）

問2. 「帰れソレントへ」の原詞の作詞者は（ ）である。（5点）

問3. この曲は1902年にイタリアの（ ）がナポリを訪問した際、経済的支援を期待したソレント市長がクルティス兄弟に制作を依頼したものである。（5点）

問4. 「帰れソレントへ」は、イタリア語で「歌」を意味する（ ）というジャンルに分類されるナポリの楽曲である。（5点）

問5. 同じ主音を持つ長調と短調が用いられる調の関係を（ ）といい、「帰れソレントへ」にもこの関係が見られる。（5点）

3. 合唱の基本について（計25点）

問1. 良い歌声のためには、まず基本となる（ ）を整えることが重要である。（3点）

問2. 歌唱における理想的な（ ）の方法は、腹式呼吸であるとされる。（3点）

問3. 腹式呼吸で息を吸うと下がり、吐くときに跳ね返るように上がる（ ）の動きが、声を支える上で重要となる。（3点）

問4. 横隔膜の跳ね返りによって生まれる声の（ ）が、力強く安定した発声が可能にする。（3点）

問5. 息を吸う際、胸ではなくお腹が膨らむように意識する呼吸法を（ ）呼吸という。（3点）

問6. 驚いた顔をするように口や喉を大きく開くことで、（ ）が広くなり声が前に飛びやすくなる。（2点）

問7. 歌詞の内容に合わせて豊かな（ ）を作るとは、聴き手に想いを伝える上で効果的である。（2点）

問8. ハミング練習では、特に（ ）を響かせることを意識すると、響きのある歌声に繋がる。（3点）

問9. 鼻腔や口腔など、声を響かせるための空間を総称して（ ）という。（3点）

4. 作曲家ヘンデルとオラトリオ「メサイア」について（計25点）

問1. G.F.ヘンデルは、ドイツ出身で後期（ ）音楽を代表する作曲家である。（5点）

問2. ヘンデルが特に得意とした、宗教的題材に基づき、独唱・合唱・管弦楽によって構成される大規模な楽曲形式を（ ）という。（5点）

問3. イエス・キリストの生涯を題材とし、全3部から構成されるヘンデルの最も有名なオラトリオは〔 〕である。（5点）

問4. オラトリオ「メサイア」の第2部の最後を飾る、キリストの復活を晴れやかに歌い上げる合唱曲は〔 〕として世界中で親しまれている。（5点）

問5. ヘンデルの有名な管弦楽曲には、組曲「水上の音楽」や組曲「（ ）」がある。（5点）

解答と解説

1. 尺八楽「巢鶴鈴幕」について

問1 一尺八寸（約54.5cm）

問2 親子の情愛

問3 虚無僧（こむそう）

問4 スリ上げ

問5 メリ（または メリ込み）

2. カンツォーネ「帰れソレントへ」について

問1 E.デクルティス（エルネスト・デ・クルティス）

問2 G.B.デクルティス（ジャンパッティスタ・デ・クルティス）

問3 首相（当時のイタリア首相 ザナルデッリ）

問4 カンツォーネ

問5 同主調（同主短調／同主長調）

3. 合唱の基本について

問1 姿勢

問2 呼吸

問3 横隔膜

問4 支え

問5 腹式

問6 口腔

問7 表情

問8 鼻腔

問9 共鳴腔（または共鳴）

※問題文の「知鳥胸」は誤字と思われるため修正しています。

4. 作曲家ヘンデルとオラトリオ「メサイア」について

問1 バロック

問2 オラトリオ

問3 メサイア（救世主）

問4 ハレルヤ・コーラス

※問題文の「ハレカ・コーラス」は誤字と思われるため修正しています。

問5 王宮の花火の音楽